

今週の主張

需要拡大に伴う労働災害の増加を懸念

今年度の第1四半期は消費税率引き上げによる反動減が表れてやや低調だったが、依然、建設需要は堅調に推移しており、建設技能労働者の需給状況がひっ迫している状況は変わらない。

他方、厚生労働省は、労働災害のない職場づくりに向けた緊急対策を発表した。14年上半年（1～6月）の死亡災害の大幅な増加を受けて実施したもので、安全衛生部長名で「労働災害のない職場づくりに向けた緊急要請」を出すまでとなっている。14年上期の労働災害発生状況（速報値）は、死亡

者数は対前年比19・4%増の437名。休業4日以上死傷者数は同3・6%増の4万7288名。なかでも製造業の死者数は同12・3%増の82名、死傷者数は同4・3%増の1万1111名。建設業の死者数は同28・2%増の159名、死傷者数は同4・0%増の6922名。増加要因は、2月、3月の大雪による交通労働災害や転倒災害の増加、消費税増税前の駆け込み需要に伴う生産活動や物流量の増加。4月以降も産業活動が引き続き活発という仕事量の増加に起因することを一番の要因に挙げているが、作業員の経験不足によるものも見逃せない。

ファブ各社は旺盛な需要に対応するため、設備更新・導入して人員を増強する動きが目立つ。収益を改善するためには生産効率を向上することは当然だが、作業工程の再確認、現場でのKY活動や作業員の安全衛生教育の徹底など作業員の『安全・安心』向上にも注力すべきではないか。命の尊さは当たり前のこと、労働災害による社会的信用の損失も計り知れないものがある。安全は祈願するだけでなく、現場の設備や作業環境の改善、防止設備・装置導入などのハードおよび訓練・教育によるソフトの両面で未然に防ぐべきもの。安全はすべてに優先するのだから。

安全はすべてに優先するのだから。